



平成灯台守

2022. 1 月号

発行/御前埼灯台を守る会



ここ 1、2 年は新型コロナウイルスに翻弄され、御前埼灯台を守る会の事業や灯台資料館の開設が思うように出来ませんでした。が、反面、うれしい出来事がありました。

それは、御前埼灯台が国の重要文化財に指定されたこと、そして、守る会が海上保安庁長官より感謝状をいただくという思いがけない慶事があったことです。

今年は御前埼灯台着工 150 年を迎えます。5 月のゴールデンウィークには、新装なった灯台前広場を使って思い切り屋外イベントを楽しみたいと思います。

また、秋には 2 年延期した灯台ワールドサミットが予定されています。

皆様方のご支援ご協力をお願いします。



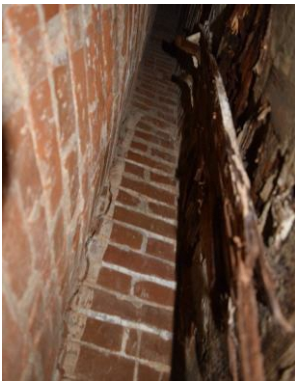
海上保安庁長官表彰を受賞

灯台を守る会は 11 月 1 日の全国灯台記念日に、永年に亘り御前埼灯台の歴史文化の伝承や航行援助業務の広報に貢献したとして海上保安庁長官から感謝状をいただきました。発足して以来 15 年に亘る会員の皆様方のご支援とご協力に感謝申し上げます。

国重文指定書、清水海保に伝達

御前埼灯台が国の重要文化財（建造物）であることを示す指定書の伝達式が、11 月 1 日灯台前広場で行われ、柳澤重夫御前崎市市長から灯台を管理する戸田陽一清水海上保安部長に手渡されました。指定物件は灯台本体のほかに旧官舎並びに国産の昭和 25 年製回転機械分銅自動巻揚装置で、特に灯台は地震や湿度の高い我が国の特異性を考慮して、灯塔を外壁、内壁の二重構造として耐震性や湿気対策等をするなど歴史的、建築技術的に価値が高いことが認められました。また、旧官舎も灯台と同様に壁をレンガで積み上げた構造です。





【二重円筒構造の灯塔内部と分銅自動巻揚装置】



【レンガ積みされた旧官舎の壁構造】

灯台のある風景を守る

伝達式の祝辞で灯台を守る会の齋藤正敏会長は、「岬の先端に立つ白亜の灯台は御前埼のシンボル、住民の誇りでもあり、御前埼の原風景そのものであります。このたび、国の重要文化財に指定されたことは私たち御前埼灯台を守る会にとっても最大の喜びであり、灯台を守ると言う第一の目標が叶えられました。この指定を機に更に御前埼灯台の魅力発信と活用を図り、大切に守っていききたい。」と述べました。

調査記録

伊勢湾海上交通センター

灯台資料館展示パネル制作に使う資料調査のため、灯台を守る会のメンバー4名（齋藤会長、高塚、森田、釜下）が12月6日、海上保安庁伊勢湾海上交通センターに行ってきました。

同センターは、伊良湖灯台のある岬の小さい高い山の上、茶屋前の駐車場から海側の道路を上がった標高



50mのところにあります。中央に展望台を持った立派な施設で、灯台から見上げたのはこの建

物のほんの一部に過ぎませんでした。

センター内の会議室で次長さんから概要の説明をいただいた後、管制室等の様子を見学することができました。

伊良湖水道は、伊勢湾口の伊良湖岬と神島との間にあり、外海から伊勢湾及び三河湾に入る水道です。大小各種の通航船舶の往来が激しく、また漁船が操業する海域でもあるので、航行には十分な注意が求められます。海上交通センターでは、船舶交通の安全と運行効率の増進を図るための情報提供と航行管制を行っています。船舶の動静監視を行うモニターには、高性能レーダーにより捉えた船舶のエコーをコンピューター解析してグラフィック処理したものが表示されています。



この日は雨模様で管制室から湾内の視界は霞んでしまっていました。通行する大型船との日本語と英語による交信の様子は、さながら航空管制塔のようだと述べたところ、「今日は雨で漁船が少ないため管制は楽な方だ。空は立体的で衝突を避ける幅も大きい。海は平面だから危険も増す。」との説明に、当センターの果たす役割の重要性和職員の責任感の高さを感じました。

船舶に安心を届ける灯台の灯火とともに、高度な情報収集と解析技術により海上交通の安全を確保するための大切な施設の存在を知ることができました。＜記録 釜下道治＞

